
横浜市立大学の未来を考える

『カメラ通信』第 20 号

2004 年 5 月 17 日(不定期刊メールマガジン)

Camellia News No. 20, by the Committee for Concerned YCU Scholars

大学改革市民アンケート情報開示請求顛末記(その2)

2004.5.17 一楽重雄教授(理学部)の情報提供により、編集者作成。

一楽重雄教授(理学部)が「情報開示請求」で入手した 6 文書のうちの 2 文書および『新たな大学像の附属文書 031029』を対照させて読むと、情報操作の過程が歴然とします。

なお、残りの 4 文書(「オープンスクール参加者アンケート集計結果」「高校生・予備校生アンケート集計結果」「高校・予備校関係者アンケート集計結果」「横浜市立大学の改革に関する企業・産業関係者アンケート調査報告書」)も、同様に、(不都合部分を)全面黒塗りしてあります。

この奇怪な情報操作に対して、一楽教授は、不服申し立てを再度行って、「黒塗り部分」および「アンケート調査票」を開示するよう請求しています。ご参考までにお知らせいたします。

横浜市立大学学生アンケートのうち、
学生の意見要望の項目は、10ページから21ページまで炭塗り公表です。

VII. 本学改革に関する意見・要望

[商学部]

【大学の理念(存在意義)の確立】
【大学の知名度(イメージ)の向上】
【学生のリーディング力】
【学部が担うべき役割の明確化】
【教員の研修(研究)の推進(質的向上)】
【学生生活への対応】
【授業内容の充実(国際化)】
【大学自治の堅持】
【教育の質(教員の研鑽)の推進】
【学部(専攻)のあり方(改善)】
【国際化(国際化推進)】
【学部構成の現状維持(学部統合は問題)】
【教育(教員)の充実(教員待遇の向上)】
【学部が担うべき役割の明確化】
【研究(教員)の推進(教員待遇)】

【看護短期大学部】
【学部/学科の増設、変更の拡大】
【学部間の交流/連携】
【出向施設・設備充実】
【教員増設の確保し・優秀な教員の確保】
【教育内容・カリキュラムの充実・柔軟化】
【時間制の見直し】
【地域との交流、地域への貢献】
【大學生の安全性の確保(セクハラ危機管理・プライバシー保護管理の改善)】
【その他】

横浜市立大学市民アンケートのうち「意見・要望」は、
18 ページから 28 ページまでは炭塗り公表です。

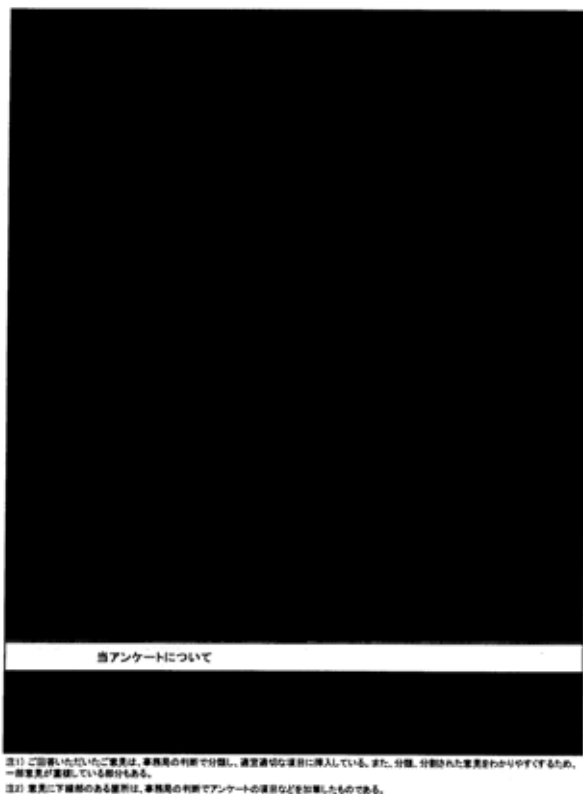
IV. 市立大学に対する意見・要望

・市民の意見は、「市立大学に対する評価・印象」、「望ましい大学像・大学のあり方」、「大学改革の検討・進め方」、「情報公開の徹底・広報活動の積極的展開」、「地域・社会への貢献」に関するものが多く、特に広報活動の積極的展開を望む声が多い。

表IV-1 市立大学に対する意見・要望(自由記述)

市立大学に対する評価・印象
[Redacted content]

28 ページです。



28

『大学改革市民アンケート調査概要』(9-10ページ)では、以下のように、内容の一部がつまみ食いされています。

(1) 高校生・予備校生アンケートで、期待として記述されたものを整理してみると、「大学改革」に関するもの(7件)、「学部・学科と募集定員」に関するもの(21件)、「入学制度と卒業制度」に関するもの(9件)などが多く、期待としての記述は55件を数えた。

具体的意見の例

・ 推薦でとる人数を増やして欲しい。・ 看護学部も4年制を作ってください・ 国立とも私立とも違う何かを期待します。

(2) 高校・予備校関係者(主に進路指導担当)アンケートでは、「望ましい大学像」として、『地域に開かれた大学・地域に根ざした大学』(9件)と『個性、特色ある大学』(7件)という意見に集約される。

具体的意見の例

・ これまで以上に地域性を活かし、重視したきめ細やかな教育活動を展開し、「これぞ横浜市立大学」と言えるような特徴のある大学作りを期待しております。・ 小規模総合大学、地域に密着した大学としての良さを残して欲しい。高校生向けの公開セミナー、市民向けのセミナーを充実して欲しい(学生による研究発表会の公開など)。

(3)市民アンケートでは、市民が考える、市立大学の各種の地域貢献の重要度をみると、「横浜市の市民・納税者に、十分な貢献を行う」が最も重要度が高く、「とても重要である」が50.8%で過半となっており、これに「わりと重要である」を加えた重要度比率は81.7%と高水準にある。

具体的意見の例

・ 市民として市立大学に対する期待は大きい。特に医学治療分野における市民への貢献および生涯教育に対する市民への働きかけに大いに期待したい。・ 社会人が働きながら勉強する制度を沢山作って学生を増やす方が良いと思います。その方が社会に貢献することも市政に意見や興味もでてくる。

9

(4)企業・産業関係者アンケートでは、市立大学が横浜市の公立大学として、大学の持つ人的・物的資源を生かして社会的使命を果たしていくためにはどのような改革・改善案を重視すべきかを尋ねたところ、「非常に重視する」とした割合から、「高度な専門教育の充実」(38.2%)、「人格教育への取り組み」(30.0%)、「大学院教育の拡充(高度な実務専門家養成の修士課程の充実)」(24.1%)、「産学連携の強化(工学系を含む研究体制の整備)」(24.1%)、「社会人教育の拡充(学位取得も含む)」(18.2%)が上位5つに取り上げられた。

具体的意見の例

・ 今の学生をみてもがっかりする事が多い、人格を磨く事、社会に対応できる人が一番大切。・ 市大の貢献は大と認めます。時代は自助努力を求めており産業社会研究開発と特色を發揮し世の為役立つ事が求められその成果を期待されている。日本企業が世界で活躍しているが数としては100程度である。陽のあたらぬ中小企業を活性させ各社特徴ある技術・研究開発等を貴校がとりあげて更なる改良開発を推進するならば(利益の分配も含めて)産学の2人3脚で地方と国の発展は確かなものとなる。そこに集中してほしい。

編集発行人: 矢吹晋(商学部非常勤講師) 連絡先: yabuki@ca2.so-net.ne.jp
